

## 薬剤師国家試験

## ●昭和60年3月：薬剤師国家試験出題基準制定

◇試験委員に出題の指標を与え、問題の水準を一定に保つ方策として、初めて薬剤師国家試験出題基準（ガイドライン）を作成。

① 試験科目：「薬理学、衛生化学、公衆衛生学、薬剤学、薬事関係法規、日本薬局方」

② 出題基準の分類項目：「大項目・小項目」

◇本文からの抜粋

「・・・その内容については常に最新のものとすべき努力が必要であるが、全般的な見直しはおおむね5年を超えない範囲を目途とすべきであろう。」

## ●平成2年5月：薬剤師国家試験出題基準改定

◇出題基準が約5年を経過することから、見直し・検討を実施。

※試験科目、出題基準の分類項目の変更なし。

## ●平成6年6月：薬剤師国家試験出題基準改定

◇平成4年の医療法改正、医薬分業の進展により、薬剤師の教育や国家試験のあり方について見直しを求める意見が強くなり、「薬剤師国家試験制度改善検討会」を開催し、同検討会の「最終報告」に基づき、試験科目、出題問題数及び出題基準等の改正を行った。

① 試験科目：「基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、薬事関係法規・薬事関係制度」の4分野に変更。

② 出題基準の分類項目：「大項目・中項目・小項目・小項目の内容」に細分化。

【平成6年6月の改正内容】

試験科目	学説・実地	問題数
薬理学	30	30
薬事関係法規	15	15
薬剤学	30 35	65
衛生化学・公衆衛生学	30 15	45
日本薬局方	30 15	45
計	135 65	200

試験科目	問題数
基礎薬学	60
医療薬学	120
衛生薬学	40
薬事関係法規・制度	20
計	240

◇「最終意見」からの抜粋

「出題基準の内容は、学問の進歩及び薬剤師業務の変化に応じ改定が行われるべきものであって、従来通り、おおむね5年を目途に見直しを行うことが適当である。」

## ●平成10年12月：薬剤師国家試験出題基準改定

◇出題基準が約5年を経過することから、見直し・検討を実施。

※試験科目、出題基準の分類項目の変更はなし。

## ●平成16年3月：薬剤師国家試験出題基準改定

◇出題基準が約5年を経過することから、見直し・検討を実施。

※「医療薬学」及び「衛生薬学」で、大項目の事項の整理を実施。

(参 考)

## ●過去の出題基準の見直し時期と実施時期

[見直し時期] [実施時期]

第1次 昭和60年3月制定 → 昭和60年秋 (第69回～)

第2次 平成2年5月改定 → 平成3年 (第76回～)

第3次 平成6年6月改定 → 平成8年 (第81回～)

第4次 平成10年12月改定 → 平成12年 (第85回～)

第5次 平成16年3月改定 → 平成17年 (第90回～)

## 薬剤師国家試験の実施状況

試験回次	新 卒			そ の 他			合 計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
	名	名	%	名	名	%	名	名	%
76 (3年)	8,885	7,540	84.86	1,403	656	46.76	10,288	8,196	79.67
77 (4年)	8,546	6,712	78.54	1,901	785	41.29	10,447	7,497	71.76
78 (5年)	8,297	7,232	87.16	3,010	1,819	60.43	11,307	9,051	80.05
79 (6年)	8,415	6,921	82.25	2,460	951	38.66	10,875	7,872	72.39
80 (7年)	8,790	7,055	80.26	3,192	1,459	45.71	11,982	8,514	71.06
81 (8年)	8,825	7,473	84.68	3,112	1,681	54.02	11,937	9,154	76.69
82 (9年)	8,747	7,367	84.22	2,835	1,362	48.04	11,582	8,729	75.37
83 (10年)	8,548	7,010	82.01	2,982	1,377	46.18	11,530	8,387	72.74
84 (11年)	8,506	7,328	86.15	3,233	1,723	53.29	11,739	9,051	77.10
85 (12年)	8,620	7,625	88.46	2,909	1,588	54.59	11,529	9,213	79.91
86 (13年)	8,208	6,901	84.08	2,475	1,207	48.77	10,683	8,108	75.90
87 (14年)	8,367	7,412	88.59	2,781	1,597	57.43	11,148	9,009	80.81
88 (15年)	8,345	7,387	88.52	2,505	1,415	56.49	10,850	8,802	81.12
89 (16年)	8,504	7,349	86.42	2,544	1,304	51.26	11,048	8,653	78.32
90 (17年)	8,626	8,047	93.29	2,964	1,734	58.50	11,590	9,781	84.39
91 (18年)	8,455	7,200	85.16	2,591	1,002	38.67	11,046	8,202	74.25
92 (19年)	8,791	7,525	85.60	3,321	1,629	49.05	12,112	9,154	75.58
93 (20年)	10,025	8,652	86.30	3,748	1,835	48.96	13,773	10,487	76.14



問5 次の記述はけい光光度測定法に関するものである。正しいものの組合せはどれか。

- a けい光光度測定法において、けい光波長は励起波長より短い。
- b けい光光度測定法において、けい光波長は励起波長より長い。
- c けい光波長と励起波長との長短は、物質によりまちまちである。
- d 励起波長が変化すると、放射するけい光波長も変化する。
- e 励起波長が変化しても、放射するけい光波長は物質固有で変化しない。

- 1 (a, d)      2 (a, e)      3 (b, d)  
 4 (b, e)      5 (c, d)      6 (c, e)

問6 粉末薬品の混合に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 粉末薬品の混合は、粉末の真の比重が近いほど容易である。
- b 粉末薬品の混合は、いかなる場合も混合を長時間行うほど混合度が良くなる。
- c 混合度を測定するため、3次元無作為に採取したN個のサンプル中の薬物濃度を測定し、仕込濃度（真の平均濃度  $W/W$ ） $\bar{C}$ よりの分散  $\sigma$  を算出した。この  $\sigma$  が  $\bar{C} (1 - \bar{C})$  の値に近いほど混合度は良い。
- d 粉末薬品の混合は、粒子間の結合性、付着性が小さい場合には粒子径に近いほど容易である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	正